



勝川駅前通商店街振興組合



キャッチフレーズ

で愛 ふれ愛の街 勝川

事業実施の背景

勝川駅前通商店街は、現在再開発が進められている勝川地区（JR中央本線勝川駅前）にある。商店街の一角に立つ、高さ18mの大弘法は商店街の象徴であり、商店街の通称も「かちがわ大弘法通り商店街」となっている。

もともと買物の名古屋指向の強い街だったが、近くに大型店が出来たことが大きなターニングポイントとなり、来街者が少なくなってしまった。そこで、平成14年に理事長や組合員、街づくりNPOが発起人となり、勝川商店街活性化の「市」を立ち上げた。

事業の概要

弘法市



<弘法市の様子。出店者と来街者の「ふれあい」がある>

年12回、毎月第3土曜日に開催する「弘法市」は、春日井市を代表する催事として定着し、毎回1~2万人を集客している。市内外から商店街以外の出店者も募集しており、食品やめずらしい雑貨・小物、衣類や自作のアートなど様々な種類の商品を扱うカラフルなテント（180cm×180cm）が、約300mの通りの中央に立ち並ぶ。毎回約80店が出店し、大学生やNPOも出店者として参加している。また、大道芸人や手品などのイベント、市民によるパフォーマンスなどが毎回行われており、賑わいを創出している。

当事業は、平成14年に開始した当初、年10回の開催だったが、出店者やお客さんから「毎月やってほしい」との要望があり、平成15年から年12回、毎月第3土曜日に開催することとなった。事業を進める中心メンバーは、同商店街の役員や若手の店主約10名でつくる「プロジェクト119」という事務局で、年間119万人の集客を目標に取り組んでいるが、出店料等を徴収することで、組合負担をなくし補助金に頼らない運営を目指している。

春日井市

大弘法の活用

昭和3年に建立された高さ18mの弘法像。平成2年、老朽化が進んでいたところ、地元で寄付を集めて修理をしたのを機に、商店街のCI（Corporate Identity）を作成し、勝川駅前商店街の通称も「かちがわ大弘法通り商店街」と改めた。このCIを活かし、携帯ストラップ、お守り等のキャラクターグッズの販売や、弘法スタンプ事業も行っている。



< 商店街のCI >

事業の効果

- ・ 地元住民をはじめ市民に広く認知された。飲食店でも売り上げが伸びている上、勝川駅前地下駐車場の駐車台数も増加している（平成14年度218台/日 平成18年度309台/日）。毎回訪れる固定ファンや、開催時以外にも街を訪れる人が増加しており、「勝川」の知名度を向上させている。
- ・ 弘法市によって、組合員同士のコミュニケーションが向上し、若手後継者の商店街活動への参加のモチベーションともなっている上、再開発が進む勝川のブランド力アップにも貢献している。

事業の課題

- ・ 弘法市のマンネリ化を防止するとともに、開催が直接収益の向上に結びつかない業種の店に、いかに効果を還元するかを検討すること。
- ・ 出店においては収益の上がりやすい飲食関係が多いが、この「市」の特徴を出すために、工芸品などの出店をもっと増やすことが必要と考えておりその手法の検討が必要。

その他の取り組み

第9回全国リサイクル商店街サミット春日井大会

平成18年9月開催。まちの再生に取り組む方向性を模索し、県内外の商店に新たな施策をアピールした。当日は小池百合子環境大臣（当時）を始め全国から530人の商店街関係者が出席。

震災疎開パッケージ

全国商店街震災対策連絡協議会が行っている事業。購入すると、被災時に、受け入れ先として名乗りを上げた地域に一定期間「お客様」として迎え入れられる。災害がなければ年に1度、更新時に各地の名産品がプレゼントされる。愛知県内では同商店街が唯一販売している。

勝川駅前通商店街振興組合 (通称 かちがわ大弘法通り商店街)

所在地：春日井市（JR勝川駅北）

問合せ先：勝川駅前通商店街振興組合 事務局
電話 (0568)31-9282

URL：<http://www.o-cobo.com/>

勝川大弘法通り商店街

